令和2年度 政策討論会 第二分科会(第4回) 要点記録

- ・日時 令和2年10月20日
- ・場所 NPO法人ドゥールース
- ・会議時間 10:00～11:30
- ・出席者

雪本 清浩(座長)

友永 修(副座長)

田中 市子

堂本 啓祐

反甫 旭

河合 馨

米田 貴志

岡林 憲二

(座長、副座長以下は議席番号順)

・議事内容

1. 公営企業事業所職員とNPO法人ドゥールーススタッフ様に競輪場及びサイクルピア岸和田 BMX についての説明を受けた。
2. 競輪場、BMX の順に説明を受けたあと各議員に意見を求めた。共通していた意見は、「PR不足ではないか」が最も多く、独自の周知活動だけでは限界があり、本市の支援がどこまで出来ているのかが大きいと考える。施設整備についても、地域を中心に理解を深め、誤解や見解の相違などの妨げが発生しないように改善することも必要ではないか。また、広域における自転車を中心とした拠点としての活動を進めるべきであり、各種団体との連携を強化しながら、観光促進へPR活動の効果を出さなければならないと考える。
3. 次回の討論会日程は、11月17日(火)10時～とし、スポーツ振興課・観光課・KIX泉州ツーリズムビューロ様を討論会に招聘し説明を受ける予定。

＜各議員の発言要旨＞

※順不同

●競輪場を活かし、観光促進をしていく上で競輪場とサイクルピア岸和田 BMX の管理運営を行う、NPO 法人ドゥールースさんの説明をお伺いしたが、やはり両事業体の PR の促進がもっと必要であると感じた。また、競輪場内等でのホテル誘致展開への論議を具体化すること。そして、地域の理解・協力を含めた、地域を巻き込んだ展開の重要性、必要性などについて、討論会で議論を進め、提言へ進めて行くべきであると思う。

●競輪や BMX に関する PR は、競輪場に対して良い印象を持っていない方もいるので難しかった面もある。その点を理解し、ターゲットを明確にした PR が今後は必要だと思う。

●(競輪場との意見交換において)これまで開催された大会については、競輪開催日程の事もあり誘致活動を行っていないとのことであったが、可能であれば非開催日で、コース貸し出しが可能な日を公表し、各大会運営側に伝えることもできるのではないかと考える。できれば定着する大会ができればとも思う。また、ハードの部分について説明があった。これまでの閉鎖的な環境から、開放的な環境へ改善を図るとのことである。できれば、BMX やトラックレースなど自転車競技を主体としたイベントに加えて、オリンピック競技でもあるスケボーなど、若者も楽しめる環境整備も必要ではないかと考える。いわゆるパーク的なイメージが必要ではないか。ホテル誘致について、本市では、都市公園の網がかかっていることから、取り組むとすれば手法について調査が必要とのことである。ぜひ本気で調査研究して頂きたい。選手宿舎の移設整備が予定されている。本場開催が年間で 40 日余りであり、その間は使用しない建物となる。そのことを踏まえると 40 日余りの本場開催日以外に一般の方々を 300 日以上ステイさせることが可能であるともいえる。先ほど述べたことに重なるが、BMX コースや競輪場のトラックを活用した大会や合宿、イベントや、自転車以外の観光や様々な目的の拠点にもなりえるのではないかと考えることから、ぜひとも早急に調査するべきである。250m 板張りコースにおける競輪の開催について、現在は、日本で 2 か所、しかも伊豆にしかない施設である。ぜひとも本市でも欲しいトラックである。競輪(公営競技)が 250m に取り組むことは、現在の自転車競技における世界基準のトラックレースがそのまま競輪(公営競技)になるのと同じで、より日本の競輪選手(公営競技)が、オリンピックや世界選手権などでメダルを取れる可能性が高まるのではないか。そのことで、人気も高まり、自転車競技ファンがさらに拡大する可能性を感じる。

(Deux Roues との意見交換について)説明を受けて改めて思うことは、この様な素晴

らしい取り組みを行いながら、岸和田市民の認知度が低いことを疑問に思う。誰が悪いということを求めるつもりはないが、市として周知不足であることが改めて浮き彫りになったのではないかと。BMX 界のカリスマであり、日本人初の BMX のオリンピックである方がコーチングするクラブがある。国内の BMX コースの中でも屈指のスタートヒルがある。国外チーム(韓国)とも交流している。クラブチームから世界選手権に出場する選手が多数、しかも世界ランク 4 位の選手もいる。競輪選手が、地域の幼稚園等に出向き、自転車の乗り方や安全教室を行っている。地域の産業とコラボしながらイベントや大会を開催し、多数の来場者で賑わいを創出している。このような取り組みで他市とも連携させることができれば、泉州サイクルロードを軸に、自転車をベースとした賑わいも考えられる。このことを踏まえると、自転車を基軸に展開を考えている KIX 泉州ツーリズムビューローとの意見交換が楽しみである。

●市民に開かれた競輪場として事業者も様々な取り組みをしていただいているのがよく分かった。この取り組みを市民にもより一層周知していただくよう、広報について市として、また議会として議論を深めていく必要がある。BMX の市内の競技人口を知る意味で、保険に入会している会員数はどの程度あるのか知りたいと思う。

●説明を聞いて状況がよく分かった。競輪場へ魅力ある店舗を誘致することや、周辺の道路など環境の整備が課題であると改めて感じた。

●将来性のある施設で、いろんな活動をしているのに、PR が不足していて、知らない人が多い。新規の競輪ファンを増やすためにも、PR は大事だと思う。

●ドゥールース様の日頃からの活動について、知らなかった事が多すぎるなど実感した。競輪場に隣接しており、うまく連携させる事が出来れば、本市の観光促進に繋げる可能性を非常に秘めていると考える。しかし、本市の支援が無さすぎるのではないかと。競輪場の施設整備が進められており、説明の中で「南海電車からも展望できるような施設イメージで進めている」との事であった。イメージ図では、公園のようなものもあったと思うが、ぜひとも電車からの風景(子ども達が遊んでいたり、BMX 競技など)を見て、一度行ってみようかと興味を湧くような施設整備が進められるよう議会としても提案・要望するべきではないかと思うので、分科会での議論を深め提言に繋げていければと考える。

●競輪場とドゥールースの連携の状況は良好である。次回に予定されているスポーツ振興課や観光課、KIX 泉州ツーリズムビューローの説明を受けて、全ての連携を強化し観光促進に繋げていきたい。現在競輪場は改修工事中であるが、完成後は施設

をいきいきと十分に生かせるように考えるべきである。競輪場を単に競技やトレーニングの場としてではなく、自転車の楽しさや安全面を知って貰える施設としてはどうか。先進市では、ホテルを併設していると聞く。今後、建て替えを予定している選手宿舎については、競技開催日以外は市民や観光客が利用できるホテル形式にすればいいと考える。施設を利用して、自転車に関わる大きなイベントを開催してみてもどうか。普段見ることの出来ない自転車の総合展覧会である。多くの方に競輪場が競技だけでなく、自転車振興の拠点であるという認識を持っていただけたらと思う。